

＜長倉地区における落葉広葉樹林の保全・再生事業実施計画の概要＞

1 事業実施主体

久保川イーハトープ自然再生研究所(宗教法人知勝院及び東京大学大学院農学生命科学研究科保全生態学研究室等との協力の元に実施)

2 対象となる区域及びその内容

(1) 自然再生事業の対象となる区域

久保川に隣接する長倉地区の樹林(面積18ha)

(2) 自然再生事業の内容

以下を目標として、立地条件に応じて、間伐等の光環境の改善、落ち葉掻き等の適度な人為攪乱、外来植物の排除等の管理作業を実施する。作業は環境学習面の効果を重視し、多様な主体の参画に努める。

・放牧地跡

林床植物の多様性が高い落葉広葉樹林を再生させることを目標とし、残存している外来牧草種の排除やササ類等の競争力の高すぎる在来種の抑制管理を実施する。



①樹木密度の高い斜面林

・落葉広葉樹密度の高い斜面林

林床植物の多様性の高い樹林を再生させることを目標とし、ミスミソウ等の春植物等の個体群回復を重視する。

・スギ植林地

林床植物の多様性の回復、低木・亜高木層の木本の開花促進を目標とする。

3 周辺地域の自然環境の関係、自然環境の保全上の意義及び効果

対象地域一帯は、落葉広葉樹の雑木林として炭焼き等に利用されてきたが、近年、生活様式等の変化により管理が放棄される場所が増え、樹木やササ類の高密度化がみられ、林床植物の多様性が失われている。また、放牧地・採草地や小規模植林地も存在しているが、これらの場所でも多くが管理放棄されている。

対象区域において適切な管理を再開することで、林床植物の個体群回復や、そこを生息場所としている昆虫などの生物個体群の回復といった生物多様性の豊かな里山環境の再生を目指す。これにより、在来種の豊かな森林の魅力と価値を地域に浸透させ、樹林



②事業先行箇所で見られる林床植生

の恵みを享受しつつ保全する活動が他の場所へ展開されることが期待できる。

4 その他

再生目標と方法はモニタリングの結果を踏まえて順応的に変更する。モニタリングは適宜項目の追加や手法の見直しを行い、新しい評価手法の開発に努める。

また、事業の全段階を通して、環境学習効果を重視し、地域の多様な主体の参画を求めて行うとともに、絶滅危惧種等の分布情報を除き一般への情報公開に努める。

